

経済・金融フラッシュ

No.07-016 2007/05/24

貿易統計 07年4月～米国向け輸出が減少

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

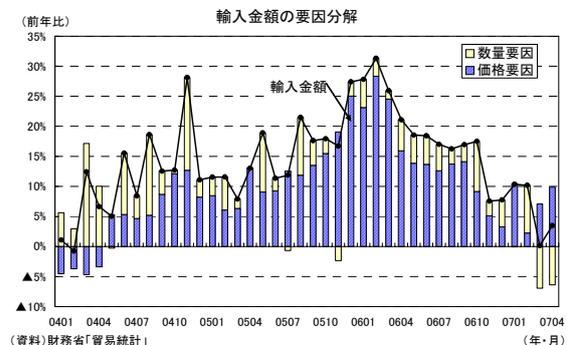
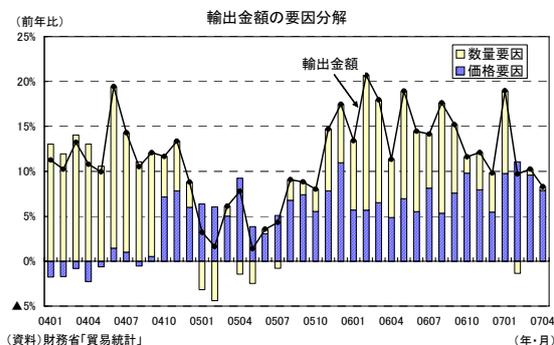
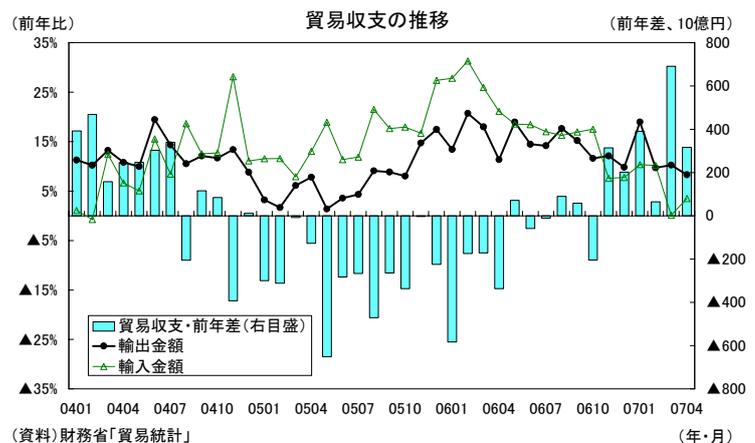
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は6ヵ月連続で改善

財務省が5月24日に公表した貿易統計によると、4月の貿易黒字は9,267億円（前年比51.8%）と、ほぼ事前の市場予想（ロイター集計：9,537億円、当社予想は9,602億円）通りとなった。貿易収支は6ヵ月連続で前年よりも改善した。

輸出数量が前年比0.4%とほぼ横ばい（3月：同0.6%）となる中、輸出価格が前年比7.8%と伸びが鈍化した（3月：同9.6%）ため、輸出額は前年比8.3%となった（3月：同10.3%）。

輸入数量は前年比▲6.1%と前月（同▲6.7%）に続き大幅なマイナスとなったが、原材料価格の上昇などから輸入価格が前年比10.2%（3月：7.3%）と伸びが高まったため、輸入額は前年比3.5%と3月の同0.1%から持ち直した。

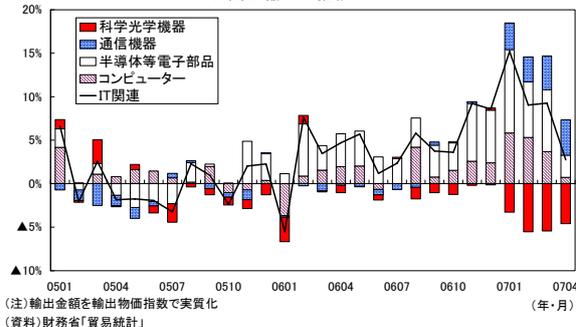


2. IT 関連、自動車輸出の伸び鈍化

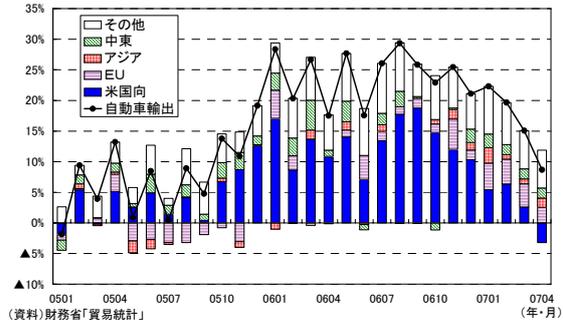
輸出の内訳を見ると、鉄鋼（前年比 25.7%）、非鉄金属（同 27.7%）、一般機械（同 11.1%）などが高い伸びとなった。IT 関連品目では、通信機（同 99.6%）は非常に高い伸びとなったものの、コンピューター（同 1.1%）、コンピューター・部分品（同▲0.7%）はほぼ横ばい、科学光学機器（同▲23.2%）が大幅な減少となったことから、全体では伸びが鈍化した。国内では、電子部品・デバイスの在庫積み上がりが続いており、今後 IT 関連輸出が伸び悩むようだと言及調整が長引くリスクが高まるだろう。

自動車は前年比 8.7%の増加となったが、19 ヶ月ぶりに伸び率は一桁にとどまった。自動車輸出の約 4 割を占める米国向けが減少に転じたことが大きい。米国の自動車販売は不調が続いており、これまで好調だった日本車の販売も 4 月には落ち込んだ。これまで牽引役だった自動車輸出には陰りが見られる。

(実質・前年比) IT関連輸出の推移



(前年比) 地域別自動車輸出



3. 米国減速の影響が顕在化

輸出数量は前年比 0.4%と 3 月の同 0.6%に続きほぼ横ばいにとどまった。EU 向けは前年比 6.6%（3 月：同▲3.7%）と 5 ヶ月ぶりに増加に転じ、アジア向けは前年比 7.1%（3 月：同 7.4%）と高めの伸びを維持したが、米国向けが前年比▲12.8%（3 月：同▲4.2%）と大幅に落ち込んだ。

米国向け輸出の急速な悪化は一時的な要因による可能性もあり、5 月以降の動きを見極める必要があるが、米国の 1-3 月期の実質 GDP は前期比年率 1.3%の低い伸びとなり、5/31 公表予定の改定値では、さらに下方修正されることが見込まれている。米国経済の減速が日本からの輸出に影響を及ぼし始めていることは確かだろう。

1-3 月期の GDP 速報では、輸出が前期比 3.3%と高い伸びとなり、成長率を大きく押し上げたが、4-6 月期は輸出の停滞が景気減速の大きな要因になる可能性が高いと考えられる。